

2020年2月

専門・認定制度委員会作成

一般社団法人 日本緩和医療薬学会

緩和医療専門薬剤師養成

研修コアカリキュラム

第1版

作成過程

本コアカリキュラム(緩和医療専門薬剤師養成研修コアカリキュラム)は以下の要領で作成した。

1. 教育研修員会にてコンピテンシーを作成
2. 理事によりデルファイを実施
3. 理事会にてコンピテンシーを承認
4. コンピテンシーに基づき本コアカリキュラムを専門・認定制度委員会で作成
5. コアカリキュラムに基づき専門・認定制度委員会で緩和医療専門薬剤師養成研修ガイドラインを作成
6. 理事会にて承認

1. 到達目標

緩和医療専門薬剤師をめざす者(以下、研修者)は、本研修カリキュラムにしたがって、緩和医療専門薬剤師の職務に必要な高度の薬学知識・臨床知識・専門的技術、を修得し臨床経験を積むとともに、相応しい態度と高い倫理観を身につけることを目標とする。

- I. 医療者として当該患者の生と死に真摯に向き合えること。
- II. 緩和医療における薬剤師の役割を理解し、高い倫理観のもと、医師、看護師、その他の医療従事者と良好な意思疎通を図り、医療チームに参画すること。
- III. 患者・家族にとって最適な緩和医療を提供するため、個々の患者の状態のみならず社会的背景も的確に把握し、処方提案を行うこと。
- IV. 医療用麻薬をはじめとする緩和薬物療法に必要な知識を修得し、副作用や治療効果をモニタリングすることにより緩和薬物療法の安全確保対策を立案し、医療スタッフへの指導・周知を行うこと。
- V. 患者・家族および医療スタッフからの薬物療法に関する相談に適切に対応できること。
- VI. 最新の医薬品情報や臨床情報・ガイドライン等を、国内外のデータベースや文献情報から得る方法を修得し適切に提供できること。
- VII. 日進月歩するがん医療の最新知識と技術を常に学びつつ、患者がより有効かつ安全な薬物療法の恩恵を受けることができるように、緩和医療の向上に継続的に努力する心構えと姿勢を身につけること。

2. 緩和医療専門薬剤師に必要な知識

研修者は、下記項目にある知識を修得しなければならない。(5年間で修得)

2-1 緩和医療総論

2-1-1 緩和医療における緩和薬物療法の意義を根拠に基づいて説明できる。

2-1-2 患者・家族の全人的苦痛の理解に務め、支援することの必要性を説明できる。

2-1-3 緩和医療・終末期医療の問題点を把握し、その改善に向けた施策(緩和医療浸透のための講演活動や院内外のがん事業等への参画等)を説明できる。

2-1-4 緩和領域の薬剤について最新のエビデンスを活用し、問題点の解決に取り組む方法を説明できる。

2-2 がんの基礎に関する一般的な知識

2-2-1 主ながんの集学的治療を説明できる。

2-2-2 主ながん治療の支持療法を説明できる。

2-2-3 がん患者に対する標準的な栄養管理、輸液管理を説明できる。

3. 症状マネジメントに必要な知識と技術

研修者は、下記項目にある知識を修得しなければならない。(5年間で修得)

3-1 疼痛マネジメント

3-1-1 疼痛の病態生理のほか、心理、社会およびスピリチュアルな観点も考慮した疼痛アセスメントが実践できる。

3-1-2 WHO 方式がん疼痛治療法に沿った薬物療法を実践できる。

3-1-3 オピオイド鎮痛薬の特徴を理解し実践できる。

3-1-4 非ステロイド性消炎鎮痛薬の特徴を理解し実践できる。

3-1-5 アセトアミノフェンの特徴を理解し実践できる。

- 3-1-6 鎮痛補助薬としての抗けいれん薬の特徴を理解し実践できる。
- 3-1-7 鎮痛補助薬としての抗うつ薬の特徴を理解し実践できる。
- 3-1-8 鎮痛補助薬としての抗不整脈薬の特徴を理解し実践できる。
- 3-1-9 鎮痛補助薬としての NMDA 受容体拮抗薬の特徴を理解し実践できる。
- 3-1-10 WHO 方式がん疼痛治療法に沿った標準的治療による症状緩和が難しい患者に対しても、解決策を提案できる。

3-2 悪心・嘔吐マネジメント

- 3-2-1 悪心・嘔吐の病態生理のほか、心理、社会およびスピリチュアルな点からも悪心・嘔吐のアセスメントが実践できる。
- 3-2-2 ガイドラインに沿った悪心・嘔吐に対する薬物療法を実践できる。
- 3-2-3 悪心・嘔吐に対する非薬物療法を実践できる。

3-3 食欲不振・悪液質マネジメント

- 3-3-1 食欲不振・悪液質の病態生理のほか、心理、社会およびスピリチュアルな点からも食欲不振・悪液質のアセスメントが実践できる。
- 3-3-2 食欲不振・悪液質に対する標準的な薬物療法を実践できる。
- 3-3-3 がん関連倦怠感に対する非薬物療法を実践できる。

3-4 がん関連倦怠感マネジメント

- 3-4-1 がん関連倦怠感の病態生理のほか、心理、社会およびスピリチュアルな点からもがん関連倦怠感のアセスメントが実践できる。
- 3-4-2 がん関連倦怠感に対する標準的な薬物療法を実践できる。
- 3-4-3 がん関連倦怠感に対する非薬物療法を実践できる。

3-5 便秘マネジメント

- 3-5-1 便秘の病態生理のほか、心理、社会およびスピリチュアルな点からも便秘のアセスメントが実践できる。

3-5-2 便秘に対する標準的な薬物療法を実践できる。

3-5-3 便秘に対する非薬物療法を実践できる。

3-6 呼吸困難マネジメント

3-6-1 呼吸困難の病態生理のほか、心理、社会およびスピリチュアルな点からも呼吸困難のアセスメントが実践できる。

3-6-2 呼吸困難に対する標準的な薬物療法を実践できる。

3-6-3 呼吸困難に対する非薬物療法を実践できる。

3-7 咳嗽マネジメント

3-7-1 咳嗽の病態生理のほか、心理、社会およびスピリチュアルな点からも咳嗽のアセスメントが実践できる。

3-7-2 咳嗽に対する標準的な薬物療法を実践できる。

3-7-3 咳嗽に対する非薬物療法を実践できる。

3-8 気道分泌過多マネジメント

3-8-1 気道分泌過多の病態生理のほか、心理、社会およびスピリチュアルな点からも気道分泌過多のアセスメントが実践できる。

3-8-2 気道分泌過多に対する標準的な薬物療法を実践できる。

3-8-3 気道分泌過多に対する非薬物療法を実践できる。

3-9 高カルシウム血症マネジメント

3-9-1 高カルシウム血症の病態生理のほか、多彩な症状からも高カルシウム血症のアセスメントが実践できる。

3-9-2 高カルシウム血症に対する標準的な薬物療法を実践できる。

3-9-3 高カルシウム血症に対する非薬物療法を実践できる。

3-10 せん妄マネジメント

3-10-1 緩和臨床で、せん妄の病態生理のほか、心理、社会およびスピリチュアル

な点からもせん妄のアセスメントが実践できる。

3-10-2せん妄に対する標準的な薬物療法を実践できる。

3-10-3せん妄に対する非薬物療法を実践できる。

3-11 不眠マネジメント

3-11-1 緩和臨床で不眠の病態生理のほか、心理、社会およびスピリチュアルな点からも不眠のアセスメントが実践できる。

3-11-2 不眠に対する標準的な薬物療法を実践できる。

3-11-3 不眠に対する非薬物療法を実践できる。

3-12 不安マネジメント

3-12-1 緩和臨床で、不安の病態生理のほか、心理、社会およびスピリチュアルな点からも不安のアセスメントが実践できる。

3-12-2 不安に対する標準的な薬物療法を実践できる。

3-12-3 不安に対する非薬物療法を実践できる。

3-13 スピリチュアルペインマネジメント

3-13-1 スピリチュアルペインについて対応できる。

3-14 家族ケア

3-14-1 家族を第二の患者としてとらえケアできる。

3-15 遺族ケア

3-15-1 グリーフケアについて理解し、積極的に取り組むことができる。

4. 緩和医療専門薬剤師に必要な倫理観と態度

研修者は、下記に挙げる態度を修得する(必修、5年間で修得)

4-1 プロフェッショナリズム/倫理

- 4-1-1 患者の意向を尊重できる。
- 4-1-2 患者や家族に愛情と誠意を以って接することができる。
- 4-1-3 各医療職種/各介護職種の意向を尊重できる。
- 4-1-4 限りある医療資源(人的資源・物的資源・財的資源・情報資源)を公正に分配できる。
- 4-1-5 守秘義務と情報共有のバランスの取り方を適切に判断できる。
- 4-1-6 利益相反行為を回避し、誠実に行動する。

4-2 関連制度/法規

- 4-2-1 安全かつ適正な薬剤使用を啓発できる。
- 4-2-2 麻薬・向精神薬の適正な取り扱いを推奨できる。
- 4-2-3 緩和医療を取り巻く制度や保険診療、ガイドラインの作成に資するような情報(研究発表/論文公表)を発信できる。

4-3 自己研鑽と教育

- 4-3-1 修得した専門知識や技術を社会に還元し、緩和薬物療法の発展に貢献できる。
- 4-3-2 患者や家族教育を行い、同僚や他職種に緩和薬物療法の知識を普及できる。
- 4-3-3 後進の指導や学術的なサポート等の教育技法を有している。

4-4 コミュニケーションスキル

- 4-4-1 相手の目標達成や問題解決策を自主的に促す対話ができる。
- 4-4-2 患者や家族が納得できる説明を状況に応じて行える。
- 4-4-3 医療者間や介護者間と信頼関係を構築し、効率的な意思疎通を図ることができる。

4-5 チーム医療/多職種協働

4-5-1 院内の緩和ケアチームや在宅緩和ケアチームの一員として貢献し、期待される役割を果たすことができる。

4-5-2 関係者(患者/家族、各医療職種/各介護職種)相互の能力を活用して、チームマネジメントが実践することができる。

4-5-3 施設外との連携に努め、施設内外において緩和薬物療法に関するリーダーシップを発揮できる。

4-6 包括的アセスメント

4-6-1 より妥当性のある最善策を選択/提案できる。

4-6-2 終末期医療を支援できる。

4-6-3 アドバンス・ケア・プランニングを支援できる。

4-6-4 患者/家族を取り巻くあらゆる課題の問題解決に取り組める。